

contents

- ・ 病院長 新年のご挨拶
- ・ 副院長・患者支援センター長 新年のご挨拶
- ・ 年末年始の診療記録
- ・ 遺伝性腫瘍外来開設
- ・ ハイブリッド手術室新設
- ・ 超音波診断装置を導入
- ・ 診療科紹介
- ・ NST 講演会のお知らせ
- ・ 院内コンサートのお知らせ



編集：杏林大学医学部付属病院
〒181-8611 三鷹市新川 6-20-2
Tel. 0422-47-5511 (代表)
<http://www.kyorin-u.ac.jp/hospital/>

■ 新年のご挨拶

病院長 甲能 直幸

明けましておめでとうございます。穏やかな初春をお迎えのこととお慶び申し上げます。昨年は Dengue 熱の国内感染、エボラ出血熱のアフリカでの感染蔓延など感染症に対する恐怖およびその対策が再認識されました。当院でも行政の感染対策マニュアルに加え感染症対応の見直しを医療安全管理部内に設置された院内感染防止委員会で行いました。

一方、平成 10 年以降、段階的に進められてきた院内整備もほぼ完了し、第 2 病棟 1 階の中央通り両脇に設置された、コーヒESHOP、コンビニエンスストア、グッズ販売店、介護ショップ、患者図書室、アートギャラリーなどが皆さまに大変ご好評いただいております。

日本医療機能評価機構による病院機能評価では施設、業務内容ともに高い評価で更新認定されました。このなかで地域医療連携については患者さんに分かりやすい組織にするように求められました。早速、組織改編を行い「患者支援センター」と改名して医師、看護師、ソーシャルワーカー、事務職員が一体となり、患者さんの多様な要望に迅速・的確に対応するべく努力しております。先ず Fax による外来初診予約、電話による再診予約変更の対応を整備致しました。また、がんセンターとしての機能を充実させるべく遺伝性腫瘍外来もスタート致しました。

本年も、杏林大学病院の更なる発展のために医療従事者をはじめ職員一同力を合わせて努力をしていきたいと考えておりますので、皆様のご理解、ご協力ならびにご指導ご鞭撻をお願い申し上げます。

最後になりましたが、本年も皆さまがご多幸でありますようにお祈り申し上げます。



■ 新年のご挨拶

副院長・患者支援センター長 塩川 芳昭



私ども杏林大学病院とさまざまな形で診療連携をお願いしております皆さま方に、あらためて新年のご挨拶を申し上げます。旧年中は大変お世話になり、ありがとうございました。日頃のあたたかいご支援に感謝申し上げますとともに、本年も従来と変わらぬご指導をお願い申し上げます。

昨年 7 月より、当院では従来の地域医療連携室（地域医療連携係、医療福祉相談係）と入退院管理室を統合して患者支援センターを発足させております。外来看護師、ソーシャルワーカー、事務職員が一体となって先生方や患者さんの多様なニーズに迅速かつ的確にお応えできるよう意図したもので、合わせて皆さま方からご依頼された患者さんへの診療体制も、よりシンプルな院内の運用ルールを再構築し、その周知と運用を開始したところです。新年度に向けては、皆様方からお送りいただく診療情報提供書も、個人情報への配慮のもと当院での円滑な運用が行えるような手直しなども目下検討しております。

さらに、当院での急性期治療がひと段落した患者さんに地域の医療機関へお戻りいただくためにも、病院間、病院・診療所間の緊密な連携が今後ますます必要となってまいります。この「杏林大学病院ニュース」の表題右に記されている「地域医療の充実を目指して、関係機関の皆さまとともに」が少しずつ実を結ぶように、新しい年を迎えるに当たり決意も新たに組みみたいと存じます。皆さま方にはよろしくご支援・ご指導のほどお願い申し上げます。

— 年末年始の診療記録 —



昨年 12 月 27 日夕方から 1 月 5 日朝までの年末年始期間中に急病等で来院された患者さんは 2,455 人でした。前回同時期と比較して 771 人増加しました。

平成 26 年度	
患者数 (人)	2,455
救急車台数	1・2 次 137 3 次 38
3 次救急患者数 (人)	36

診療科名	ATT	内科系	外科系	精神神経科
患者数	915	143	48	7
診療科名	小児科	小児外科	脳神経外科	心臓血管外科
患者数	484	11	53	1
診療科名	整形外科	皮膚科	形成外科	泌尿器科
患者数	141	145	107	82
診療科名	眼科	耳鼻咽喉科	産婦人科	SCU
患者数	164	100	34	20

■「遺伝性腫瘍外来」開設のお知らせ

がんセンターの新たな取り組みとして「遺伝性腫瘍外来」を新年から開設しました。がんの一部は、親から子に引き継がれる生殖細胞系列の遺伝子の変異（本来の遺伝子の機能が損なわれている状態）が引き金となって発症することが分かっています。

その結果、2分の1の確率で親から子にその遺伝子の変異が受け継がれますので、生まれながらにしてある種のがんを発症する危険性があり、このようながんを「遺伝性腫瘍」と言います。乳がん、卵巣卵管がん、膵臓がん、大腸がん、前立腺がんなど、男女を問わず、さまざまながんが見つかっています。

一昨年夏、米国女優のアンジェリーナ・ジョリーさんがBRCA1（乳癌関連遺伝子1）の変異による乳がんの発症予防のために、両側の乳房を切除されたことが大きく報道されました。それ以来、遺伝性腫瘍への関心が急速に高まっています。

当院でも、乳腺外科、産婦人科、消化器外科、腫瘍内科など関連する各科によって、現在、遺伝カウンセリングと遺伝子検査ができる体制が整いました。平成27年度には予防的な臓器切除も行えるように、倫理審査を含めた準備を進めます。

400万人の人口を有する多摩地区ですので、遺伝性腫瘍への診療体制を整備し、潜在するがん患者や遺伝子変異の保因者に適切な医療や指導を提供することは極めて重大な使命です。遺伝性腫瘍外来を当院の新たな特色の1つとして育てて参りますので、皆様のご指導ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

なお、外来は完全予約制で、患者支援センター・地域医療連携係にて予約を承ります。

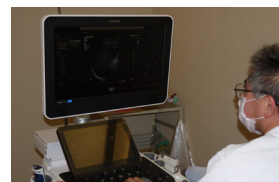
■高度救命救急センター（TCC）にハイブリッド手術室を新設

1月に心・血管X線撮影装置と手術台を組み合わせたハイブリッド手術室をTCCに新設しました。導入した血管撮影装置は、同時に2方向の撮影が可能で、撮影時間の短縮が図れ、かつ被ばく量も軽減され、患者も術者にもメリットのあるバイプレーンシステムです。また、最新の画像処理技術により効果的な手術支援が可能で高精度で安全性の高い治療が実現できます。心臓血管外科・形成外科・循環器内科・脳神経外科で実施している約470例の手術をこの手術室で行うことに加え、外来棟・TCCにおける血管撮影室の有機的で効率的な運用により待機患者の緩和にも努めていきます。医師、看護師等医療スタッフ間で技術の習得に努め、万全の態勢で2月上旬頃から運用を始める予定です。



■生理機能検査室に最新の超音波診断装置を導入

今回導入した汎用超音波診断装置「PHILIPS社製 Affiniti 70」は、昨年10月に販売され、日本国内で当院が初めて導入しました。この機種は、平成25年12月に導入した「同社製 EPIQ7」よりも小型になっていますが、高精細で高画質を実現しています。特にオートスキャン機能が優れており、従来検査施行者が行っていた画質調整を自動で約半分の時間で行うことができます。この超音波装置は昨年12月18日から運用が開始され、操作した技師は「操作が簡単で、検査開始後すぐに最適な画像を見ることができると話しています。息止めなどの時間を短縮して患者の苦痛を軽減できると新しい装置に期待を込めています。」



◆ 消化器・一般外科

消化器・一般外科は、上部消化管、肝・胆道・膵、下部消化管の3グループに分かれて診療を行っています。総手術件数はここ数年、年間約900 - 1,000件（うち緊急手術が200 - 300件）で推移しています。最近では腹腔鏡下手術の割合が増加しており、上・下部消化管では約5 - 7割の症例に対して腹腔鏡下手術が行われるようになってきました。膵疾患に対しても、最新の腹腔鏡下手術を導入しており、良好な結果を得ています。

肝胆膵の高難度手術症例も多く、日本肝胆膵外科学会高度技能医修練施設(A)の認定を受けています。また、食道や胃、大腸腫瘍に対する内視鏡的切除や、総胆管結石に対する除石治療などの内視鏡治療も積極的に行っており、当科はこのような内科的治療をもカバーできる数少ない外科施設として広く認知されています。

このような低侵襲治療全盛時代を迎え、研修医に対する教育も重視しており、実践的な手技の習得を目指し、腹腔鏡下手術のシミュレーターを用いた手術トレーニング、動物を用いた開腹・腹腔鏡下手術トレーニングなどを定期的に行っています。

医局員は、厚生労働省の研究事業に属し社会活動を行っているだけでなく、5名の大学院生を抱えながら幅広い研究活動を行っており、それらの成果は数多くの学会発表、邦文・英文報告によって国内外に発信しています。

また、クリニックなどの近隣医療施設との研究会を開催するなど、緊密かつ円滑な地域医療連携を目指して日常臨床に当たっています。

当科においても、社会的問題になっている外科医減少の流れが見え隠れしておりますが、医局員は定時手術のみならず、昼夜を問わない数多くの緊急手術をこなしながら研究、教育に携わっています。皆様にはご不便やご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、常に様々なリスクが伴う外科医療の特質をどうかご理解いただき、今後ご協力をお願い申し上げます。

診療科紹介

◆ 小児科

小児科は、多摩地域全域と杉並、練馬、世田谷から年間約26,000人の患者さんが来院され、入院患者数は年々増加傾向にあり、昨年は1,000人を超えました。診療部門は一般診療部門と、総合周産期母子医療センター内の新生児・未熟児集中治療室(NICU)、後方病床(GCU)部門に分かれています。主な患者さんは、体重500gの超低出生体重児から中学生までですが、先天性の疾患では必要に応じ成人したキャリアオーバー症例を専門診療科と連携し診療を継続しています。

一般診療部門は、大学病院ならではの専門性の高い慢性疾患、肺炎や胃腸炎などの急性感染症、3次救急対応の危急的疾患を24時間体制で診療しています。NICU・GCU部門は、産科と連携した胎児診断、正常新生児のケア、ハイリスク新生児の入院管理とフォローアップを各専門医と連携し行っています。

医局員にはそれぞれ臓器別専門分野もありますが、個々の症例に合わせた総合小児科医として地域医療に貢献しています。

NST（栄養サポートチーム）講演会のお知らせ

入院患者の栄養についての知識を深め、よりよいケアを提供していくために、講演会を下記の要領で開催します。今回は漢方と栄養についておこないます。事前申し込みは不要です。

演 題：漢方薬が架け橋となるチーム医療

～栄養サポート(NST)の観点から～

講演者：芝大門 いまづクリニック

院長 今津嘉宏先生

日 時：2月25日(水) 18:00～19:00

場 所：第2病棟4階 大学院講堂

問合わせ：杏林大学医学部付属病院

NST委員会

(代表) 0422 (47) 5511 (内線) 2492

院内コンサート予定

桐朋学園のご厚意により定期的に院内コンサートを開催しています。

4月4日(土)

7月11日(土)

10月17日(土)

12月19日(土)

会場：外来棟1階 階